

認定NPO法人 東灘地域助け合いネットワーク 兵庫県神戸市

小学生のための寺子屋の場づくり



事務所2階を全面改修した「わいわい広場」で放課後を過ごす子どもたち

団体設立経緯

1995年2月2日、阪神淡路大震災から2週間後に被災地の復興を目的に設立しました。安否確認と水汲み110番、洗濯110番などの緊急支援から始まり、避難所から仮設住宅へ、仮設住宅から復興住宅へ移られた被災者のために生活再建のお手伝いをしてきました。

一方では、震災の教訓のひとつであるコミュニティ崩壊に対し、被災高齢者に茶話会を開き、閉じこもりの防止や仲間づくりに寄与し、コミュニティの再生に取り組んできました。

活動概要と活動対象範囲

神戸市は海と山に囲まれ、近畿有数の住宅地として発展してきました。東灘区は24年前の阪神淡路大震災で一時的に人口は減少しましたが、マンションの建て替えが相次いで、人口は

震災前を上回り、多子高齢化地域となっています。

活動拠点は神戸市南東部に位置し、阪神電鉄の高架下の対面式市場5店舗を使用しています。市場の北側には大型商業施設もあり、保・幼・小・中学校の通園・通学路にもなっており、多くの人が行き交う場所にあります。

活動に至った理由や背景

東灘区は震災後、多くの若年世代の転入があり、新たな課題が発生しました。その1つは学童保育が十分な機能を果たせなくなったことです。

今回の活動の背景には、「学童保育に代わる放課後の居場所がほしい」という親の要望がありました。当法人には多くの高齢者ボランティアの登録があり、助け合いで地域の課題解決を目指していました。そこで地域の元気な高齢者が自分の経験を生かし、子どもの健全育成に係わっていただきました。

活動内容と成果

団体設立後、4年間で5回の引っ越しに迫られ、ようやく現在の市場が終の活動拠点となりました。しかし、昭和10年の建物である市場は、阪神淡



市場にある拠点入り口



解体中の事務所の2階



スケルトンにしてから全面改装

路大震災の影響を受け隙間風が入り、雨水が室内に流れ、度々活動の妨げになりました。他の店舗の方は入店される時、スケルトンにしてから全面改装するのに対し、資金のない私たちは助成金で部分的改装を複数回繰り返してきました。スケルトンにしてから全面改装したい……と言うのが長年の夢でした。

そしてこの度、本助成金を受けて、事務所の2階の物置にしていた場所をスケルトンにしてから全面改装の運びとなりました。

改装工事は定年退職後、大工で地域デビューした「コミュニティ大工なごみ工房」に依頼しました。彼は定年後、大工で地域貢献するために建築の基礎から実技を学び、NPOなどのリフォームを良心的な価格で請け負っています。

2018年6月1日より改装工事が始まりました。しかし解体後、構造上の問題で工事方法を大幅に見直すことになり、金額も当初の見積もりより大幅にアップしました。なにぶんにも古い建物なので、壁を開けてみないと分からないことや、想定外の事態が起こることは十分に予測していました。そうした中で、「ぜひ、こうしたい」と思う理想は断念し、現実に戻って絶対必要な部分だけの改装に絞り込まざるを得ませんでした。床・壁・窓枠など全体の価格を抑え、天井も塗装なしにしましたが、まだ予算オーバーでした。最後には事情を察した大工さんが、「乗りかかった船、ボランティアでやりま

すよ」と笑顔で言ってくださり、何とか当初の額に抑えることができました。

おかげで彼の地域住民の視点と専門家の視点から、空間を利用した天井収納庫や子ども図書コーナーもでき、7月に「わいわい広場」が完成しました。その後、工事代の支払いを済ませてから数日後、彼は「いただきすぎでした。僕の方は大工で楽しませてもらったんです」と言って、支払いの一部を寄付してくださいました。

こうして私たちは、いつも地域の多くの方から支えられている事に感謝しています。あとは「わいわい広場」が子どもたちの居場所となり、しっかり根付かせることで恩返しをしていきます。

A)「夏休みの宿題お助け隊」

「お盆までに宿題を済ませよう」と7月30日、なごみ工房さんが地域先生になり、「親子の木工教室」を開催しました。子どもたちは木のぬくもりに触れながら、ノコギリやかなづちを初めて使う緊張感でいっぱいでしたが、オリジナルの宝箱や本立てができるととてもうれしそうでした。完成した作品に満足しながら、来年度の夏休みも木工教室に参加したい、今度は椅子をつくりたいなど言いながら、作品を大事に抱えて帰りました。

8月6日～10日は読書感想文と自由研究に連続4日間、集中してチャレンジしました。子どもたちが一番苦手とするのがその2つで、夏休みの最後まで手をつけられずに残ってしまいがちな宿題です。それを子どもたちが自由な発想で自主的にやっていくことを促



親子の木工教室。お母さんと金づちに挑戦!



苦手な読書感想文も、みんなでやれば怖くない



人気のコリントゲームづくり

し、ボランティアが手伝うという取り組みです。

小学生48名が参加し、指導は高齢者、フリースクールの中学生、大学生のお兄さんとお姉さんで、学校では味わうことができない雰囲気の中で楽しめました。とくに自由研究では、ライトセーバーやコリントゲームに人気がありました。



「わいわい広場」学校帰りにランドセルを下げて立ち寄る子どもたち

B) 9月1日「小学生のための寺子屋わいわい広場」がオープン

対象：小学生（月・火・木・金）
午後2時半～5時半、参加費無料

子どもたちが学校からランドセルのまま直接来ることができる広場です。ソロバン、習字、英語などのお稽古が始まるまで、宿題したり遊んだりできます。おやつを食べる子は食堂で食べることができます。スタッフが事務局で受付をして、わいわい広場でボランティアが地域先生になって、宿題と見守り、遊びを担当します。安全面を考慮するといういろいろな問題が浮かび上がってきたため、当面は法人のカルチャーの子どもに限定しました。

子どもたちの様子を見てみると、あつという間に学校の宿題を済ませて、折り紙、ゲームなどの遊びに夢中になっています。また兄弟で来ている人は、お兄ちゃんのお稽古を待って一緒に帰るので安心です。

想定外だったのは、図書コーナーの本を借りたい子がいたことです。1週間の期限で貸し出しを始めると、最近では本を借りる子が徐々に増えてきました。また地域住民から不要の本の寄贈もあり、小さな子ども図書になっています。もっと広げることで、市民

へ寄付の周知と、子どもの本離れ対策に寄与できると思います。

C) 9月8日「こども食堂」のスタート

はじめに、こども食堂開設の動機を説明します。助け合いネットで一番人と人のつながりを感じるのは、昼食でした。昼食が楽しみでボランティアを始める人もいました。やがて、老親を心配する家族からの依頼で、「独り暮らしの親に昼食を食べさせてほしい」という声が増えてきました。そこで、ボランティアやスタッフといっしょに食べる「ふれあい昼食会」がスタートしました。そして、1人では食べないのに、みんなといっしょだから食欲もあり、元気になったと喜ばれてきました。

この経験から、食の大切さ・孤食の害は子どもにも共通すると考え、子



多世代イベント、影絵あそび



歯磨きの授業



ボランティアによる手づくりランチ

どもも高齢者も一緒に食べる「こども食堂」がスタートしました。

初回は親子18人が参加し、そのうち、お父さんが4人参加しました。「土曜ぐらいは父親が子育てに協力しないとね」「奥さんは仕事なので昼飯助かります」「おもちゃづくりに興味があります」などの声がありました。

しかし、その後は低迷していました。年明けからは月2回に増やすため、小学校、東灘区社会福祉協議会、学童保育などと連絡を取り合い、子ども食堂の連絡会にも参加しました。その時、聞いてほっとしたのは、他の子ども食堂でも周知されるまでに一定期間が必要だったということでした。

その後、フードバンク関西やコープこうべから食材などを提供していただけるようになりました。東灘区社協から



お父さんとおもちゃ作り



3B体操



みんなでお餅つき



ついたお餅を丸めます



こんなにたくさん丸めるのは初めて！



大きな声で売り上げに貢献

の視察やシングルマザーからの相談もあり、現在は少しずつ利用者が増えてきました。

D) 9月～3月 多世代イベント

おもちゃ工作、紙芝居、影絵、3B体操、ふれあいフェスタ、ハロウィン、お餅つきなど。

11月のふれあいフェスタのために、わいわい広場の子どもたちと看板を作ったり絵を描いたりして、いっしょに準備をしました。当日は大学生のチンドン屋と地域を練り歩き、人集めもがんばりました。12月の餅つきで、子どもたちが餅販売を体験。大きな声を張り上げて売上に貢献しました。

子どもたちは次第に地域の大人や高齢者と顔見知りになり、仲良しになり、積極性が出てきています。高齢者に対する思いやりの気持ちが育ち、表情が明るくなってきました。さらに高齢者にとっても、子どもとの触れ合いは心がいやされる楽しい時間となっています。



活動エリア

●それぞれの活動の利用者数

月	宿題お助け	わいわい広場	こども食堂	3世代交流	図書貸し出し
2018年7月	47	—	—	—	—
8月	48	—	—	—	—
9月	—	53	18	28	0
10月	—	172	4	17	2
11月	—	197	6	110	2
12月	—	146	11	130	1
2019年1月	—	104	5	0	1
2月	—	105	21	11	7
3月	—	100	24	34	7
合計	95	877	89	330	20

課題と解決策

わいわい広場

一定期間終了後は、誰でも来ることができる居場所に開放していく計画でしたが、できていません。造形や音楽を教えたいなど様々な相談が舞い込んできますが、それらは一部屋を占領することになり、他の子どもが利用できるスペースがなくなります。今も静かに宿題する子と遊ぶ子が入り混じっています。

ニーズがあっても場所が狭いのが現実です。市場の空き店舗を開放していただくことも考えましたが、見守るボランティアの謝金が払えません。

こども食堂

シングルマザーの方たちのニーズは、平日の夕食にありました。「残業の時は、お母さんも食事できる場所にしてほしい」「登校前に朝食をしっかり食べさせたい」と言われますが、スタッフの遅出・早出がネックで、どち

らもお断りしました。

ボランティア活動は無理をせず、長続きさせることが原則です。当分は現状のやり方で、ニーズに対してできる事とできない事を見極め、助け合いネットらしさを出した子ども食堂の展開を考えていきます。

今後の予定

1.活動を地域にアピールして当法人のファンを増やす

子どもたちの発表会やふれあいフェスタでは子どもたちのブースを作るなど、活動を地域に発信し、共感していただける人を増やしていく。

2.課題は行政や専門家に相談

スクールソーシャルワーカーさんが視察に来られます。すでに課題は伝えていきます。

3.寄付集めで資金作り

「子育て支援にご協力ください」の募金箱を設置して、具体的な目標金額を提示します。

●認定特定非営利活動法人 東灘地域助け合いネットワーク

設立年月 1995年2月（2001年11月法人化）
メンバー数 正会員52人、賛助会員111人、ボランティア会員130人、利用会員200人
代表者名 村山 メイ子（むらやま・めいこ）
住所 〒658-0083 兵庫県神戸市東灘区御影本町6-15-17
電話/ファクス 078-843-4029 / 078-842-2907
Eメール info@hnw.or.jp
ウェブサイト http://hnw.or.jp/
FB ページ https://www.facebook.com/hanshinmikagebabycafe/

【団体のミッション】私たちは住民同士の助け合い活動により、地域住民の居場所づくり・生活支援・子どもの健全育成・環境の保全及び福祉に関する事業を手掛けます。地域社会の発展と、福祉の向上に寄与することを目的としています。